

教職員の皆様へ

平成 25 年 10 月 24 日(木)に行われた、「東村山市心身障害児ケア担当者連絡会」による、東村山むさしの認定こども園の施設見学実習報告書です。

メンバーは、東村山市内の公立や私立の認可保育所の職員、および、関係する市役所職員にて構成されています。

今年度より幼保連携となり、各式典への行政関係者の参加はありましたが、視察としての公式な受け入れは初めて。ここで報告書として記録されている内容は、市役所内および保育関係者が目を通すこととなります。

例がなく、未知の領域である認定こども園の実態を保育園サイドの行政関係者が知り、記された記録は、市行政にとって、実態に関する説得力のある報告書となりますが、これは非常に重要なことです。

おそらく、この報告書を目にして、「幼保連携ってこんなに素晴らしいんだ」と、誰もが感じるでしょう。

今までの、むさしのの努力の成果として、すでに市長は認定こども園の普及を明言していますが、幼保連携型の実態が保育園側からも評価されることで、東村山市内はますます認定こども園に対し後押しを強め、27 年度に向けた制度設計に対しても、**幼保それぞれの立場から公平に議論できる唯一の施設**である当園の意見は、より重さを増し、認定こども園に対する条例や支援に関しても、このような公的文書における高い評価は認定こども園に対し、さらに支援を強める方向性へとつながっていくものでもあります。

様々な布陣を敷く中で、つまり、制度対応や施設構成においても様々に準備が整いつつある当園環境の中で、今後は、より現場での能力が、実態の向上へと結びつく一番の糧となります。

幼保ともに、慣例や方法、カリキュラムにおいても、既存の枠を超えた、連携への新たな発想や工夫や努力をすることで、幼保連携ならではの、ほかにはないメリットを生み出し、仕事面での合理効率化なども含めた内容のさらなる充実へと結びついていきます。

よりよき学園を目指して。

そして、より充実した保育・教育・就労環境を得るために。

「目指せ、頭脳集団」とでも言ったところでしょうか？資料に目を通していただき、どう第三者から見えているのかということ客観的にも捉えつつ、ますます重要視されるであろう当施設での日々を、創意工夫の上、仕事に邁進して頂きたいと思っています。

学園長